

6 学位論文審査基準

法文学専攻法学コース

1. 学位論文は、学位申請者自身によって書かれたものであり、修士課程在籍期間の研究を主たる内容とし、自主的に取り組んだ集大成の研究成果でなければならない。したがって、論文に剽窃、改ざん、捏造等があり、学問的誠実性に反する場合は、評価の対象としない。
2. 学位論文は、高度な専門的知識・分析手法を駆使し、自ら設定したテーマを総合的かつ多角的に考察したものであり、学界や社会の発展への貢献が期待されると認められるものは高い評価が与えられる。
3. 学位論文は指定された言語で書かれ、本文には、研究の背景・目的、先行研究・関連研究の状況、研究内容の位置づけや意義、結論等が必要に応じて適切な章立てで構成されているものとする。
4. 学位論文は、当該論文の審査委員会において認められる一定程度の学術的評価水準を保つものでなければならない。
5. 各専門領域の評価項目は、論文審査に関するものと口頭試問に関するものとに分けられる。前者の論文審査は実質面を評価対象とするものと形式面を評価対象とするものとに分けられ、後者の口頭試問はプレゼンテーションを評価対象とするものと質疑応答を評価対象とするものとに分けられる。それぞれについて、以下の評価項目の中から研究分野にふさわしい評価項目を定めて評価を行う。なお、審査委員会は、必要に応じて評価項目を追加することができる。

(1)– 1 論文審査の実質的評価項目

- ① 問題意識が明確かつ適切で、基本的な文献の調査・先行研究の検討を着実に踏まえていること。
- ② 問題解決へのアプローチが適切である〔テーマに即した研究アプローチないし研究スタイル（研究方法を含む）をとっている〕こと。
- ③ 論理展開に一貫性があり、文章表現が適切であること。
- ④ 科学的ないし客観的な資料に基づき、十分かつ適切に活用されていること。
- ⑤ 独創的見解が見られ、社会への貢献が期待できる可能性を秘めていること。

(1)– 2 論文審査の形式的評価項目

- ⑥ 各専門領域のスタイルに則って、図表や見出しがテーマに合致していること。

⑦ 引用や参照が十分であり、適切に明示されていること。

(2)- 1 口頭試問の実質的評価項目

⑧ 声の大きさやテンポが適切で、わかりやすいこと。

⑨ 割り当てられた時間を過不足なく、有効に活用していること。

⑩ 人の心に訴えかける情熱が感じられること。

⑪ 論文との関連性からみてプレゼンテーションの全体構成が適切で、コンテンツがわかりやすいこと。

⑫ プレゼンテーションの資料などが簡潔かつ要点が整理されて効果的であること。

(2)- 2 口頭試問の形式的評価項目

⑬ 質問の意味ないし意図・背景を正確に把握していること。

⑭ 質問者に誠実に応答し、真摯な態度が見受けられること。

⑮ 応答が簡潔かつ的確であること。

6. 学位論文の評価等については、別に定める。

法文学専攻人文学コース

1. 論文は、人文諸科学の学問領域の高度な研究方法と学際的視野をもって、自ら設定した課題について考察したものでなくてはならない。
2. 論文は、各教育研究領域におけるそれぞれの分野において、以下のような評価項目に基づき評価し、各評価項目の内容を満たしている場合に合格とする。
 - (1) テーマ設定の適切さ
テーマ設定が当該分野の研究領域に属しており、優れた着眼点を備えている。
 - (2) 先行研究の整理
主要な先行研究を概観し、適切な整理がなされている。
 - (3) 論理性および文章の適切さ
内容に論理性があり、適切な文章で表現されている。
 - (4) 引用、参照の適切な明示
適切な引用、参照が行われ、注記が適切になされている。
 - (5) 独自性
内容に独自性があり、当該分野の学術的発展に寄与できる。
 - (6) 質疑への応答
口頭試問において質問の意味を理解し、的確に答えている。

産業システム創成専攻

1. 論文は、経済・経営および環境・資源マネジメントに関連する諸分野の高度な研究方法と学際的視野をもって、自ら設定した課題について考察したものでなくてはならない。
2. 論文は、各学問領域におけるそれぞれの分野において、以下のような評価項目に基づき評価し、各評価項目の内容を満たしている場合に合格とする。
 - (1) テーマ設定の適切さ
テーマ設定が当該分野の研究領域に属しており、優れた着眼点を備えている。
 - (2) 先行研究の適切な理解
主要な先行研究を概観し、適切な理解が示されている。
 - (3) 論理性
論理展開に整合性がある。また、結論の導出に際してデータや資料が必要になる場合、それらも適切に収集・提示されている。
 - (4) 独自性
研究内容に独自性があり、当該分野の学術的発展に寄与できる。
 - (5) 引用、参照の適切な明示
適切な引用、参照が行われ、注記が適切になされている。
 - (6) 文章の適切さ
適切な文章で表現されている。
 - (7) 質疑への応答
口頭試問において質問の意味を理解し、的確に答えている。
3. 公正な評価が可能となるよう、研究科の学位論文審査基準をいくつかの項目に分け、各項目の段階的到達度を集計し、総合的な評価を実施する。